

南伊豆町総合計画について

令和元年 6 月 2 6 日
南伊豆町総合計画等審議会資料 5

南伊豆町における総合計画の考え方

第5次南伊豆町総合計画では…

地方自治法第2条第4項において、「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うようにしなければならない。」としており、本計画はこの規定に基づき策定するものとします。
(第5次南伊豆町総合計画からの抜粋)

第6次南伊豆町総合計画の策定にあたって…

本町では、まちづくりの指針となる総合計画を公共計画として策定し、同計画に基づき、町民の皆様との協働による行政運営を推進するため、新たに「南伊豆町総合計画の策定等に関する条例」を策定し、総合計画の策定及び推進に関する重要な事項を定めることといたしました。(南伊豆町総合計画の策定等に関する条例解説から)

総合計画の位置付け

1 まちづくりの最上位計画

本計画は、まちづくりを行ううえでの最上位計画として、町の将来像及び目標を示すとともに、その実現に向けた施策の展開を示します。

2 まちづくり全般にわたる総合的な計画

本計画の取り扱う内容はまちづくり全般にわたり、それぞれ中長期的な展望に立ち、計画的・効率的な行政運営を行うための指針を示します。

3 将来像の実現に向けて、町民と行政が共有する計画

本計画は、行政だけでなく、町民をはじめとする地域の団体、企業など地域を構成する人たちが目標を共有し、ともにまちづくりを進めるための考え方や方針を示します。

これまでの総合計画（期間と目標）

第1次南伊豆町総合計画（計画期間：昭和45年度～昭和54年度）

第2次南伊豆町総合計画（計画期間：昭和55年度～平成元年度）

『光と水と緑に輝く南伊豆まち』

- ・総合的な産業振興を図る
- ・快適な生活基盤を確立する
- ・高度な土地利用を実現する

第3次南伊豆町総合計画（計画期間：平成2年度～平成11年度）

『光と水と緑に輝く南伊豆まち ～伊豆南端にきらめく海遊のまち～』

- ・ほんものの自然と調和したまちづくり
- ・ふれあいとゆとりのあるまちづくり
- ・誇りと愛着のあるまちづくり

これまでの総合計画（期間と目標）

第4次南伊豆町総合計画（計画期間：平成12年度～平成21年度）

『健康、交流、自然共生のまち

～光と水と緑に輝く南伊豆まち・伊豆南端にきらめく海遊のまち～ 』

- ・生きがいと創造
- ・自然との共生
- ・地域にふさわしい交流

第5次南伊豆町総合計画（計画期間：平成22年度～平成31年度）

『次世代につなぐ 光と水と緑に輝く南伊豆町

～ひとにやさしく 自然にやさしく 未来につなぐまちづくり～ 』

- ・「ひとが動き、まちが動く」協働によるまちづくり
- ・「雄大な自然を守り、恩恵にあずかる」自然と共生のまちづくり
- ・「まちの魅力を全国に発信する」地域ブランド創造のまちづくり

総合計画の構成

総合計画

基本構想

町の将来像を示し、その実現を図るための施策の方向を定めます。

基本計画

基本構想に掲げた施策の大綱を具体化し、目標達成のために必要な総合的かつ基本的な施策を明らかにするものです。

実施計画

基本計画に基づき、実施すべき施策を定めたものであり、基本計画の補完的役割を担います。

第6次総合計画の基本方針（案）

第6次総合計画では、人口減少、少子高齢、経済衰退など、地域における様々な課題を克服し、若しくは、それらをもうまくいなししていくことで、将来にわたって、この南伊豆地域での人の営みを継続していけるよう、持続可能な地域づくりを進めていくための指針とするべく、地域づくりの方向性を、これまでの発展型から、集約・集中型としていくことへの言及についても恐れることなく審議を重ね、地域への愛着と誇り、生活への安心、未来への希望を、引き続き享受することのできる構想策定を推進することとし、その具現化を図るための実施計画、直面する課題の克服等による地域創生を図るためのまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を進めていくこととします。

第6次南伊豆町総合計画等策定の基本方針（案）から

南伊豆町の概要

南伊豆町の概況

本町は伊豆半島の最南端に位置し、北東は下田市、北は松崎町に接しており、南と西は太平洋が展望できる立地となっています。面積は110.59km²で、東西11.5km、南北9.7kmに広がる町域は、そのほとんどが天城山脈に連なる山地の影響で急傾斜地となり、また、8割以上を山林や原野が占めています。気候は、県下で一番温暖であり、南国果実や亜熱帯植物が栽培されるほどです。このような温暖気候、水や緑に囲まれている本町は富士箱根伊豆国立公園に属する一大景勝地となっています。

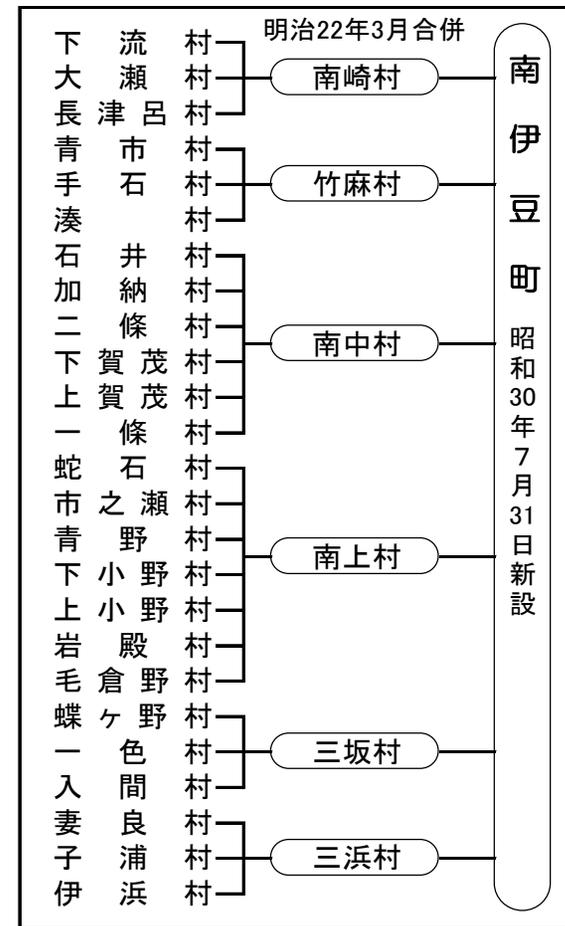
交通面では、最寄り駅は伊豆急行の伊豆急下田駅となり、東京と約3時間で結ばれています。広域道路網では国道136号が通っており、本町へのアクセスとして重要な役割を果たしています。

南伊豆町の概要

南伊豆町の歴史・沿革

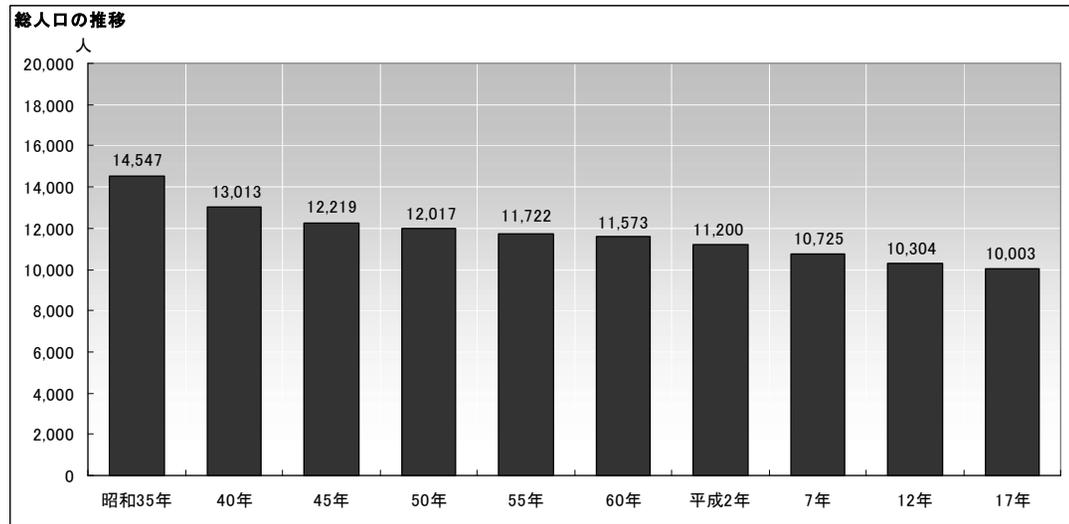
本町の歴史は、古くは縄文時代にまで遡るとされています。また、江戸時代には伊豆が幕府の直轄領になったことや地形から海上交通の要衝として発展し、現在においても各地に伝統芸能が継承され、保存されています。

明治時代に入ると、廃藩置県により伊豆地域は当初韮山県、次いで足柄県となり、明治9年から静岡県となりました。明治22年には町村制の施行を機に南崎村、竹麻村、南中村、南上村、三坂村、三浜村と、現在の本町の母体となる6村が誕生しました。そして、昭和30年7月には町村合併促進法に基づき、6村が合併をし、南伊豆町が誕生しました。

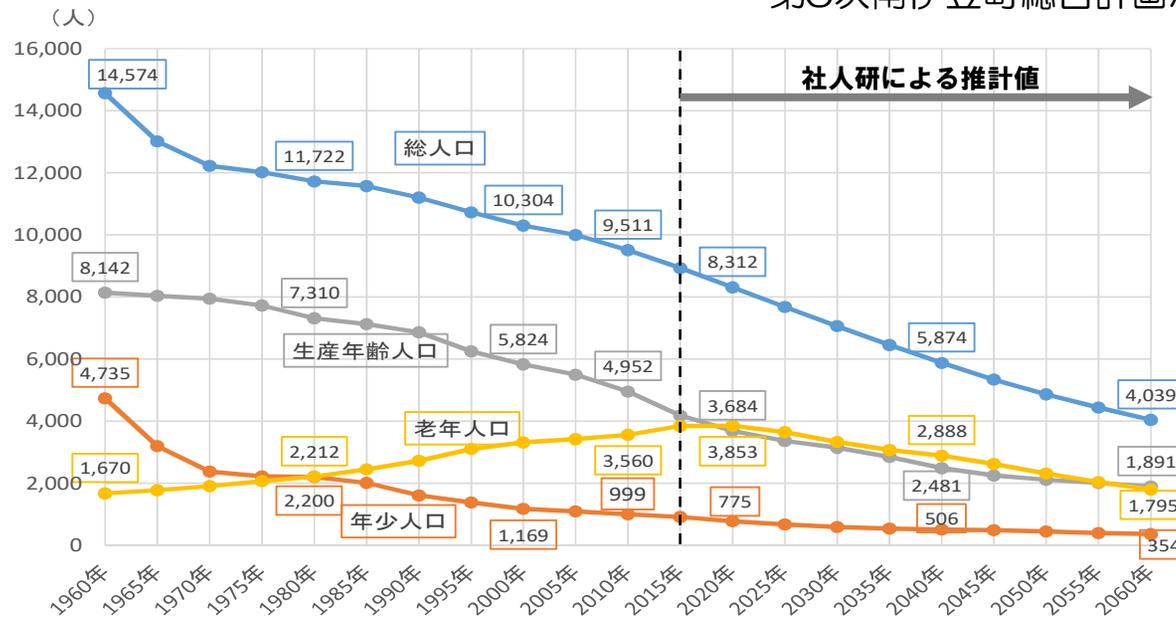


第5次南伊豆町総合計画からの抜粋

人口の推移と将来予測

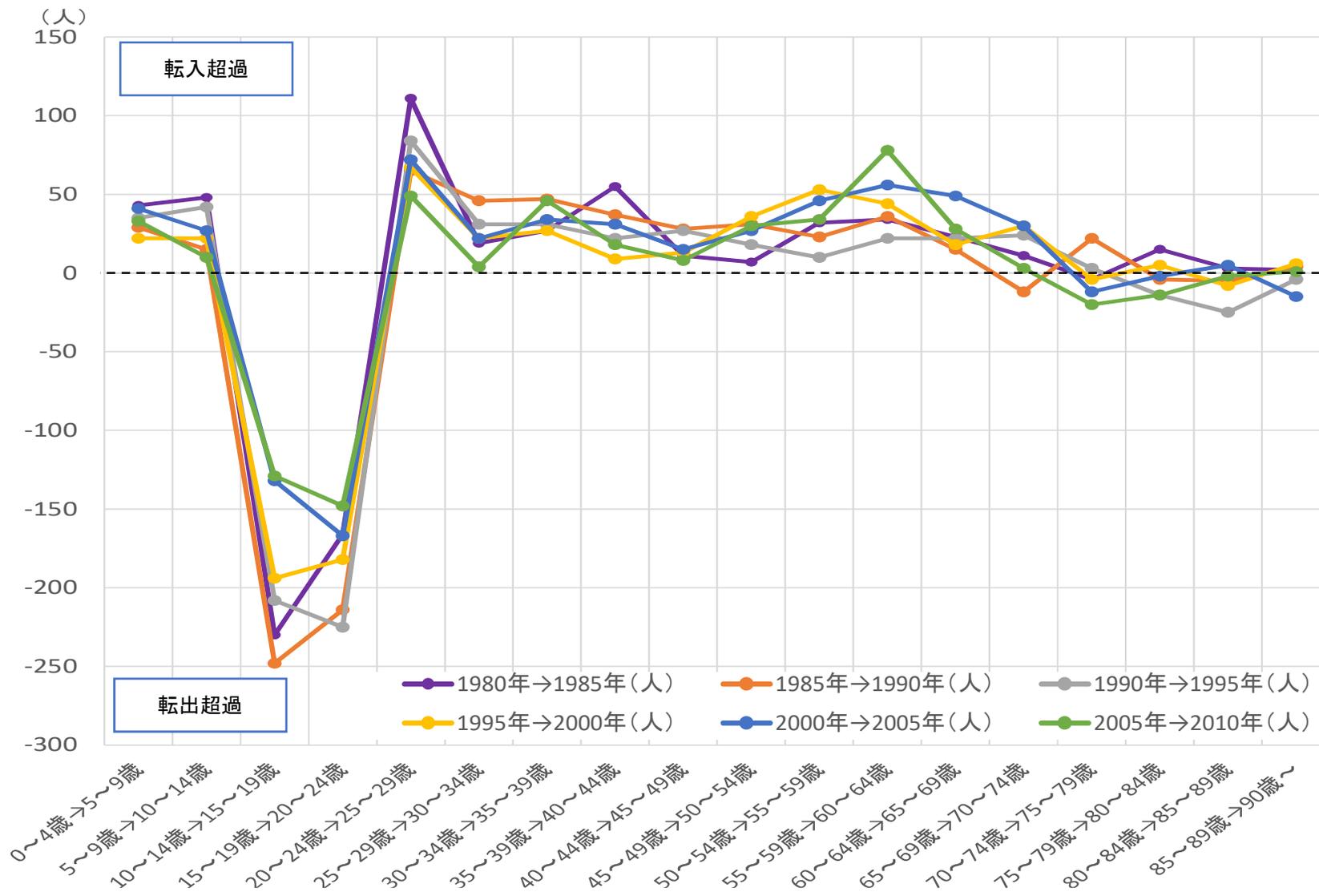


第5次南伊豆町総合計画から



南伊豆町人口ビジョンから

人口の推移と将来予測

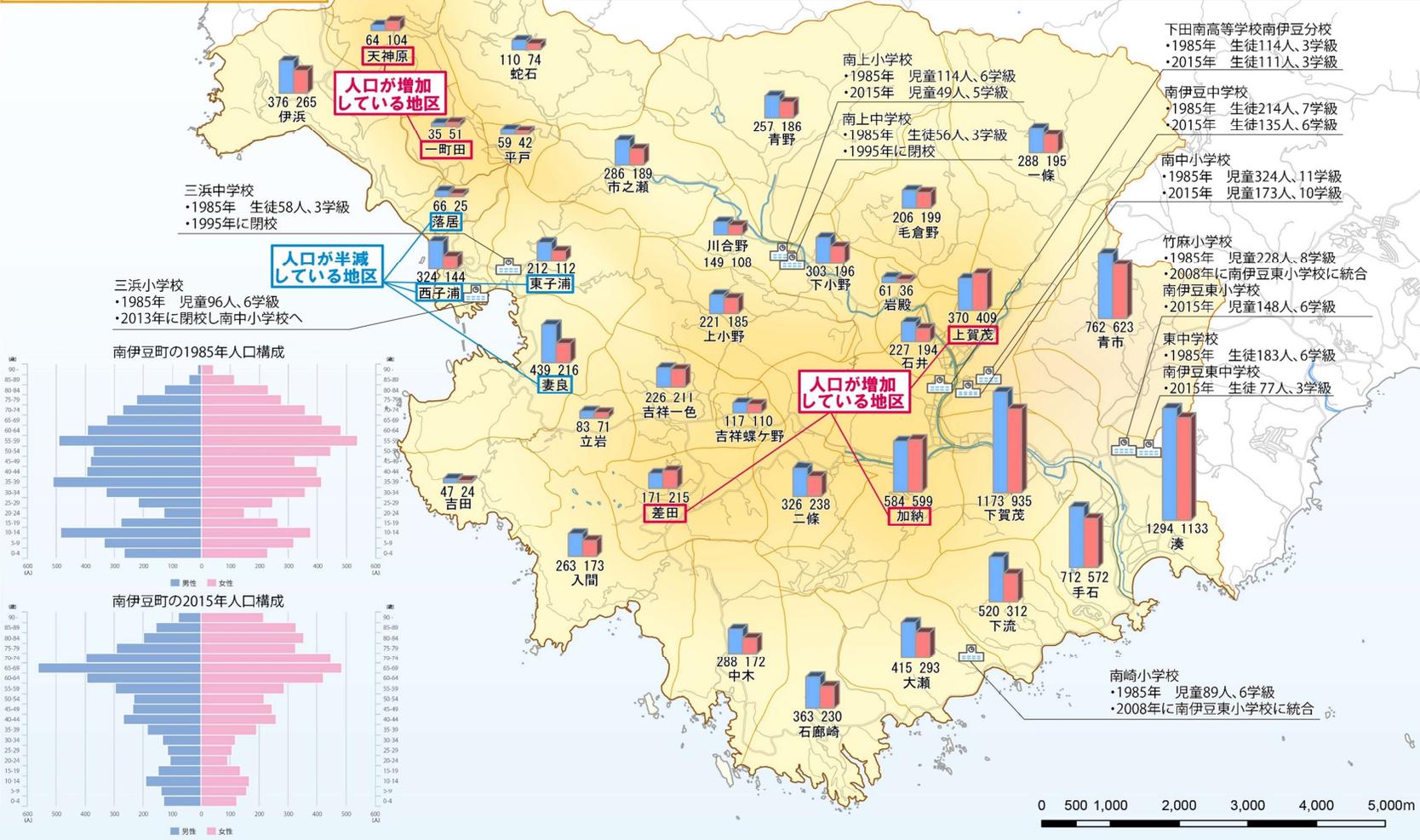


人口の推移と将来予測

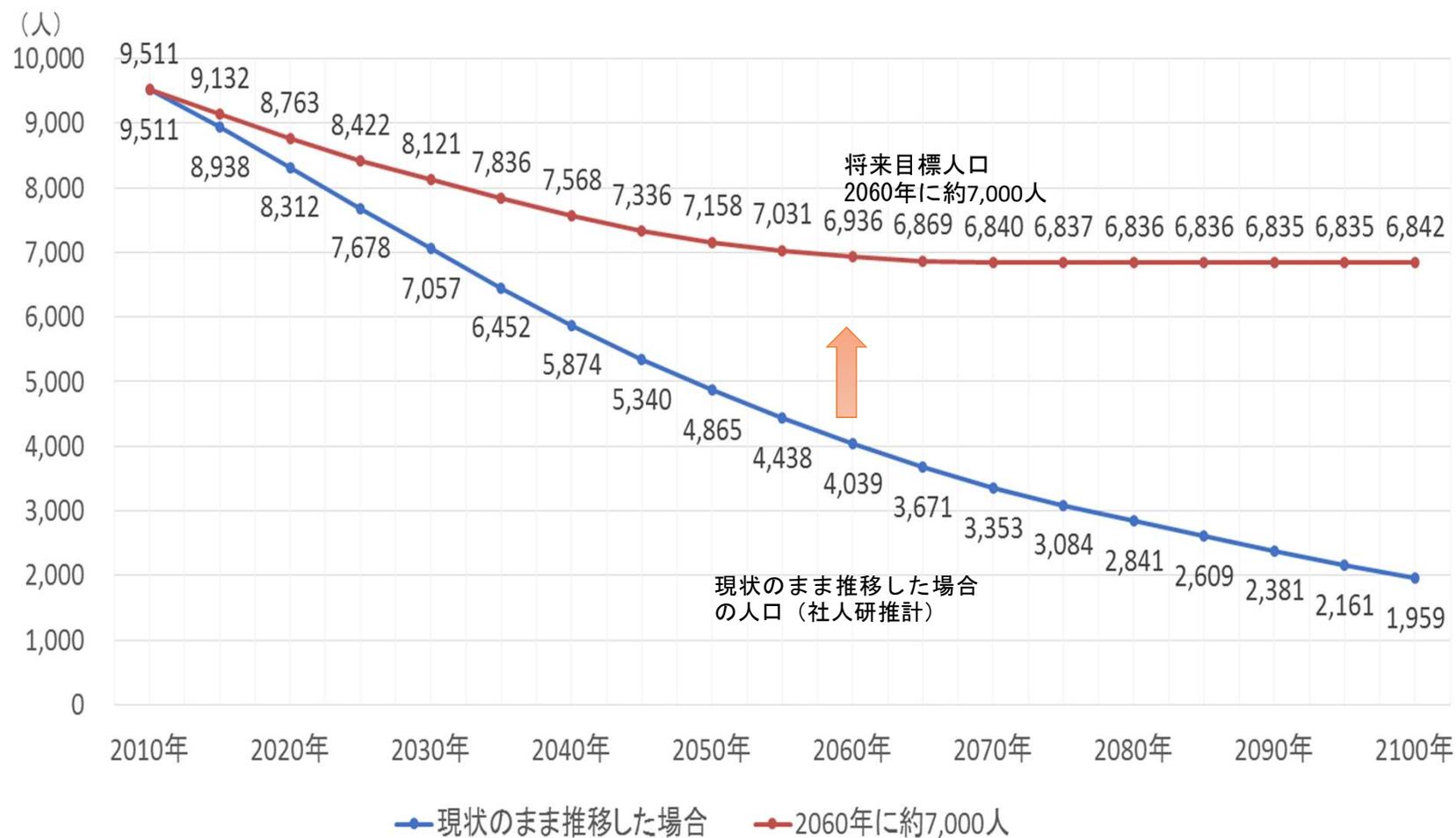
南伊豆町の30年前から現在までの各地区人口と児童・生徒数の変化

【凡例】
 1985年 人口 (青)
 2015年 人口 (赤)
 ※各年4月1日住民登録 ※児童・生徒数は町勢要覧より
 小学校・中学校・高等学校

・30年前から現在にかけて、人口が半分以下になっている地区がある一方で、増えている地区もある。
 ・総じて、内陸部に比べて沿岸部の地区が人口減少が著しく、沿岸部の地区における観光業や漁業の衰退、民宿の減少等が大きく影響していると考えられる。

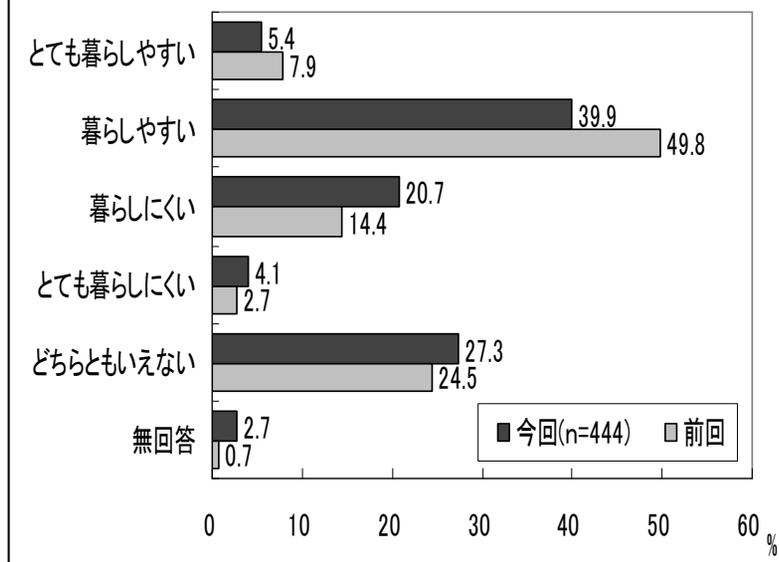


人口の推移と将来予測



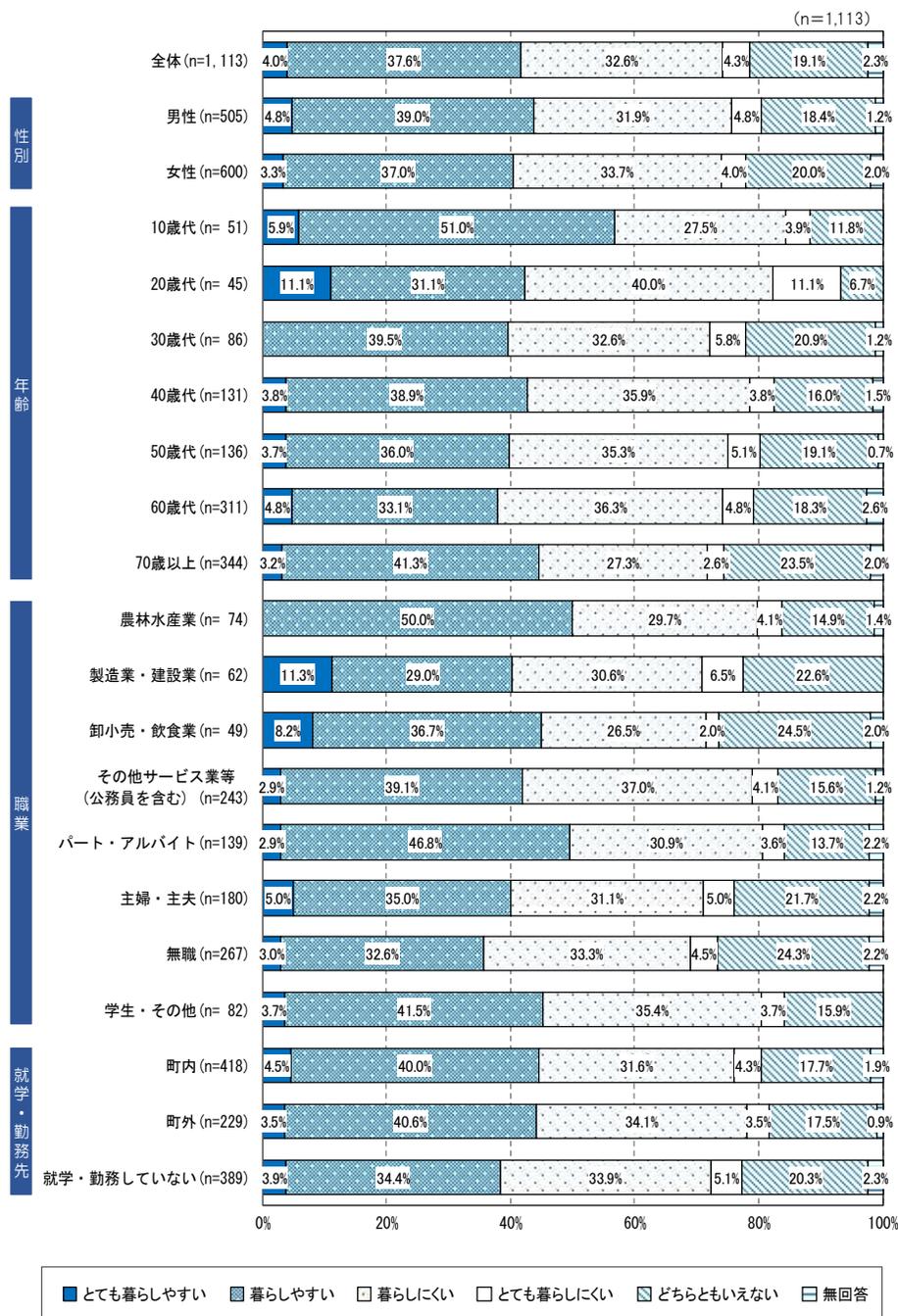
住民の意識調査から

暮らしやすさについて



第5次計画策定時アンケートから

昨年実施したアンケートから



計画の策定体制

(1) 南伊豆町総合計画等審議会

それぞれの計画を策定するための審議機関として設置するもので、町内各機関の代表、公募による委員、学識経験を有するアドバイザーからなります。町長からの諮問を受け、総合計画及び総合戦略の策定、人口ビジョンの見直しについて多角的な見地からの審議を行い答申します。

(2) 総合計画等策定ワーキング

町民各層で構成する組織で、総合計画、総合戦略を中心としたまちづくりについての提案を行います。

(3) 総合計画等策定庁内ワーキング

南伊豆町職員で構成し、庁内における検討会のほか、総合計画等策定ワーキングにおける検討の際のコーディネーターとして参加します。

(4) 南伊豆町百人委員会

町民各層で構成する常設のまちづくり委員会で、行政改革、商工・観光、福祉・教育、農林水産、次世代育成、公共交通、防災対策の7つの部会で構成し、講演会、勉強会、ワークショップなどを通して総合計画等の策定にも協力します。